

大磯 RC 卓話

ロータリーの歴史

1. なぜ奉仕する人々の団体に生まれ変わったか？
2. 現在推奨の社会奉仕の定義

ロータリーの誕生



最初のロータリアン。左から、シルベスター・シール、ポール・ハリス (本を指している)、ハイラム E. ショーリー、ガスター

第1回会合時の ポール・ハリスの提案

- 私達が皆、かつて田舎町で味わった相互協力と打ち解けた親睦という非常に単純な構想が基本のクラブである
- 各職業もしくは**業種で一人の会員**を推薦するとし、会員が人柄の誠実さを保証出来るような人物だけを推薦する。
- こうする事でこのクラブは必然的に後援会となり、互恵的な取引だけでなく、**男同士**で互いに親睦を深められるグループとなる

第1回会合時の ポール・ハリスの提案

- 1業種一人に限られるため町一番の男性を選ぶことができる。多くの取引をもたらしてくれそうなクラブへの入会を拒む人などいまい
- ポールはスーツをハイラムの店で新調し、ハイラムは石炭をシルベスターから買い、ガスターバスはポールに法律業務を依頼すると言った具合に

1905年10月決定した ロータリーの目的

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思われる事項の推進

1907年の ロータリーの目的

1. 本クラブ会員の事業上の利益の増大
2. 通常社交クラブに付随する親睦及びその他の特に必要と思われる事項の推進
3. 「シカゴ市の最大の利益を推進し、シカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広める＝社会奉仕の提唱＝

ロータリーの奉仕の目覚め 初めての社会奉仕

1907年シカゴから48キロ離れたイリノイ州

ジョリエットの説教師の馬が死に、教区民の

間を廻ることができなくなった時、クラブが説

教師のために馬を買ったことであった

ロータリーの 本格的な社会奉仕

シカゴ中心部に公衆便所建設

1907年に提唱したが大きな反対運動に合い、
実現に2年を要した

- ・当時居酒屋が男子のトイレを貸し
- ・百貨店が女子トイレを貸していた

何かを買う事が暗黙の了解事項であった

1910全米ロータリークラブ連合会 ロータリークラブの目的

1. クラブの新設
2. 全クラブの共通の利益の推進
3. 市民としての誇りと忠誠心の奨励
4. 高潔なビジネス方法の推進
(職業奉仕の提唱)
5. 個人会員の事業上の利益の増大

社会奉仕の事例(1)

- ・大陸横断ハイウエープロジェクト＝サンフランシスコ万博対策(1911年)
- ・ネブラスカ州の竜巻、インディアナ州の洪水再建キャンペーン＝救援隊を組織し被災者に給食、農家の家畜に給餌(1913年)
- ・ロスアンジェルスでの貧民救済＝隣保館設立、1～5万ドルの経済援助(1918年)

1915年全米ロータリークラブ連合会 ロータリークラブの目的

1. クラブの新設
2. 全クラブの共通の利益の推進
3. 市民としての誇りと忠誠心の奨励
4. 高潔なビジネス方法の推進
5. 地域社会の公共の福祉に対するクラブ会員の関心を高め、かつ、市、社会、商工業の発展のために他の人々と協力すること。
6. 同僚や社会一般のために奉仕したいという意欲を起こすよう会員を鼓吹すること

ロータリーの奉仕の態様

- 創立以来長年にわたりロータリーは奉仕の行為を静かに匿名で行うのが不文律であって、奉仕で世間の目を引いたり、それをしたのは自分たちだと主張するのを慎む傾向があったが、ここにきて都会でも田舎でも社会奉仕はロータリーの純正マークとなった。

社会奉仕の事例(2)

- 東京大震災復興援助(1923年)
- メキシコ・ベラクルス天然痘子供3万5千人に予防接種(1925年)
- 1931年に始まったロンドン地区の視覚障害者に白い杖贈呈プロジェクトはアイルランドそして全世界に広まった

決議 23-34

「ロータリーは、基本的には一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務及びこれに伴う他人のために奉仕したいという感情の間に存在する矛盾を和らげようとするものである。

この哲学は奉仕—超我の奉仕の哲学であり、これは「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。」

決 議 23-34

- 第1: 奉仕の理論が職業及び人生における成功と幸福の基礎であることを団体で学ぶ事
- 第2: 自分たちの間においても、又地域社会に対してもその実際例を団体で示すこと
- 第3: 各人が個人としてこの理論をそれぞれの職業及び日常生活において実践に映す事
- 第4: 個人として、又団体としても大いにこの教えを説き、その実例を示すことによって、Rtn.だけでなく、Rtn. 以外のすべての人々が理論的にも実践的にも、これを受け入れるよう励ますこと

1951年 国際ロータリー ロータリーの綱領 (旧訳)

1. 奉仕の機会として知り合いを広めること
2. 事業および専門職務の道徳的水準を高めること;あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること;そしてロータリアン各自が、業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること
3. ロータリアンすべてが、その個人生活、事業生活および社会生活に常に奉仕の理想を適用すること
4. 奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人の世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進すること

現在の ロータリーの目的(新訳)

1. 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること
2. 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること
3. ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々奉仕の理念を実践すること
4. 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること

1971年-72年度

RI会長 アンスト・ブライトホルツ

- 「工業先進国では…政府やその他の機関が地域社会で奉仕活動を行うようになったが為に、その影響をまともに受けて、社会奉仕プロジェクトの実施機会が少なくなった…。しかし私達は皆、まだしなければならないことが山程ある事を知っている…ロータリアンは、様々な奉仕分野で、福祉プログラムが満たせない「個人的なふれあいを提供出来るのである」

社会奉仕とは

- すべてのロータリアンの個人生活、職業生活、社会生活において、奉仕の理想を育み、これを奨励する =ロータリアンの利他の心を育む機会を提供する=
- ロータリアン一人一人が「超我の奉仕」を実践する機会 =奉仕の喜びを体験する機会=
- 地元の地域社会のニーズに応える機会

社会奉仕プロジェクト

- 地域社会にとって意義があるもの
- ロータリアンにとって学びの機会となる
- 地域社会でのロータリークラブのイメージと認知度の向上が計れるもの

2780地区テーマ

Light Up Myself

自分自身に輝きを

1. 感動 一生懸命
2. 歓働 飲んで働こう
3. 汗働 汗を出して働こう
4. 貫道 道を貫こう
5. 環働 輪になって働こう